

2025年度 人科図書室の利用に関するアンケート

集計結果報告

1. 調査概要

調査目的：

人間科学研究科図書室の利用状況の把握と、図書室をより利用しやすい環境に整えるための意見収集。

調査時期：

2025年12月02日～2026年1月30日

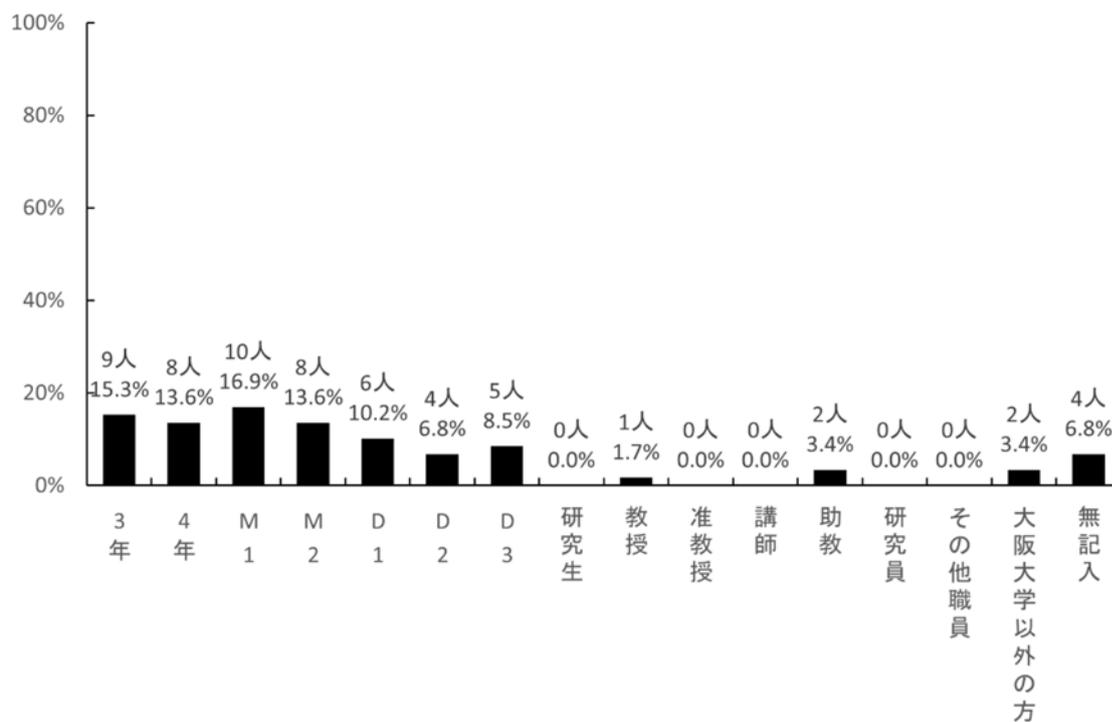
調査方法：

人間科学研究科図書室に来室した利用者にアンケート用紙を配布し、回答済の用紙を図書室に設置したアンケート回収箱に投函するように依頼した。

回収数：59（昨年度回収数：54）

2. 結果

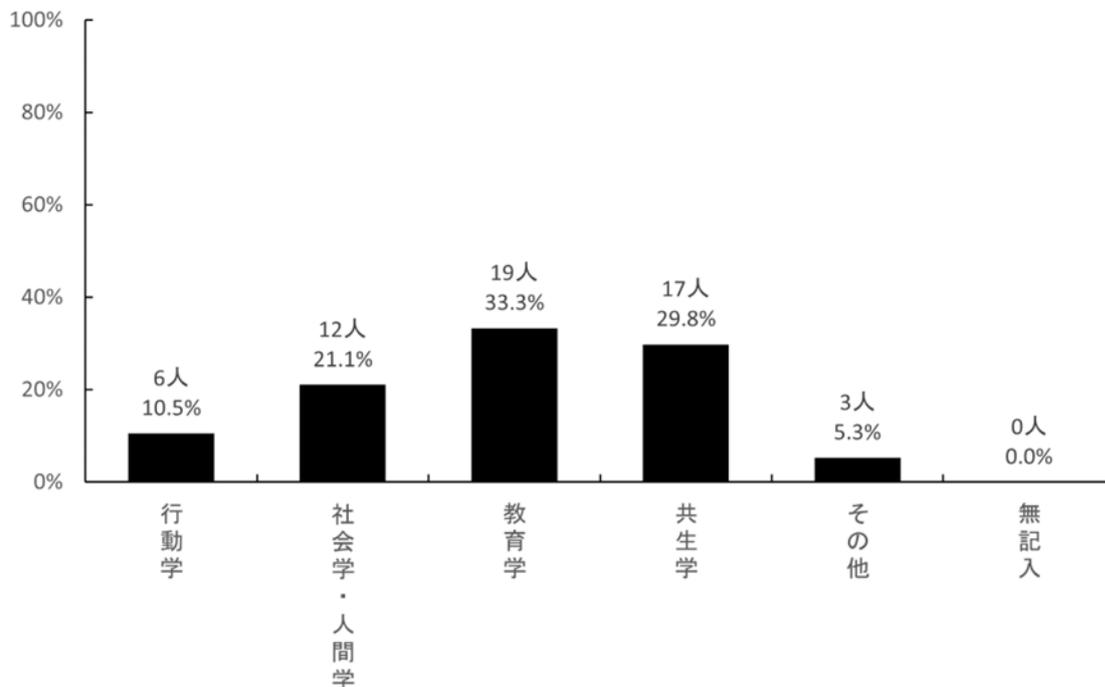
① 回答者の身分



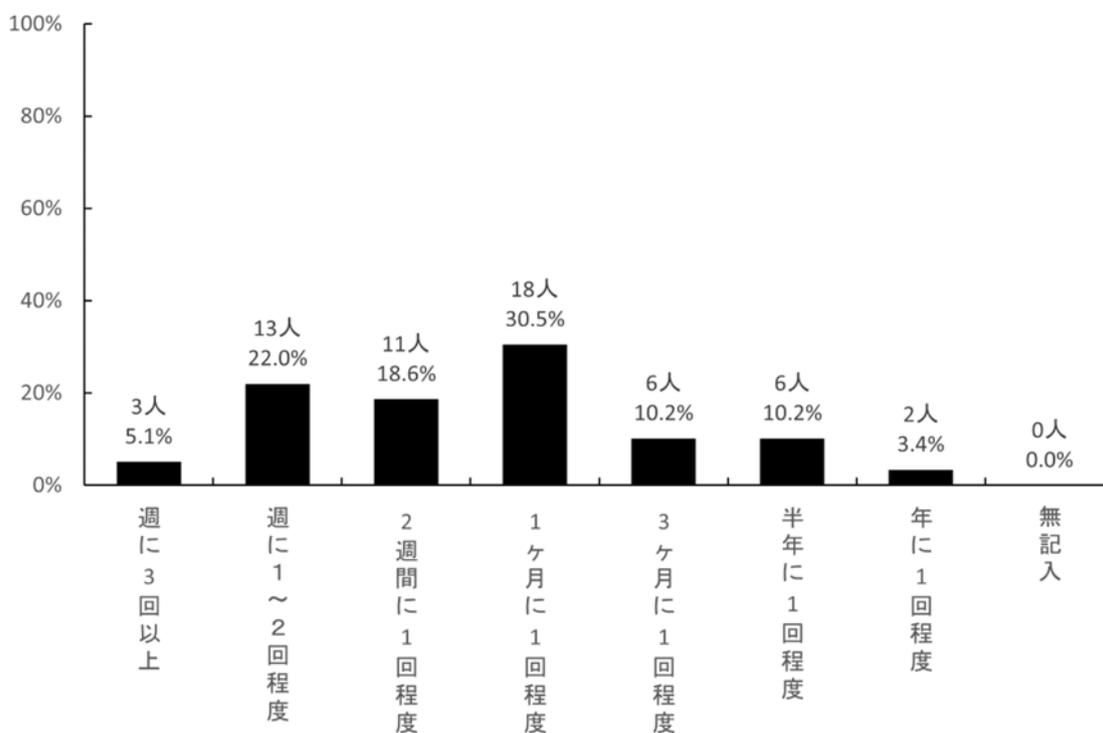
学部生は 17 人（昨年度：10 人）、大学院生・研究生は 33 人（昨年度：34 人）、教員・研究員・その他職員は 3 人（昨年度：6 人）大阪大学以外の方 2 人（昨年度：0 人）と、昨年度より回収数が微増した。なお、対象者は昨年同様、図書館利用者に絞っている。

また、回答者 59 人のうち、28.9%（17 人）が学部生、56%（33 人）が大学院生・研究生であった。

② 回答者の所属学系

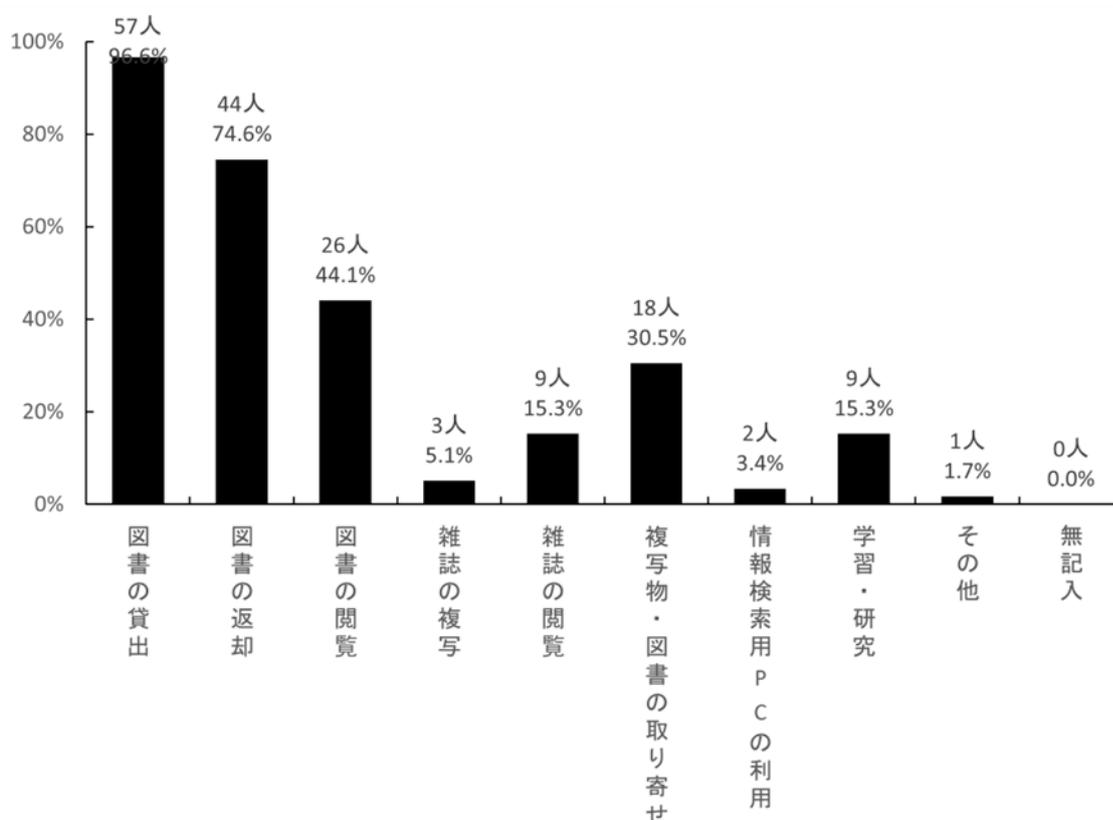


③ 人科図書室の利用頻度



「2週間に1回程度」以上の高頻度で利用する利用者の数が全体の45.7%と、昨年度(57.5%)より利用頻度が減少しており、「1ヶ月に1回程度」以下の低頻度で利用する利用者の数が54.3%と、昨年度(42.6%)より増加している。

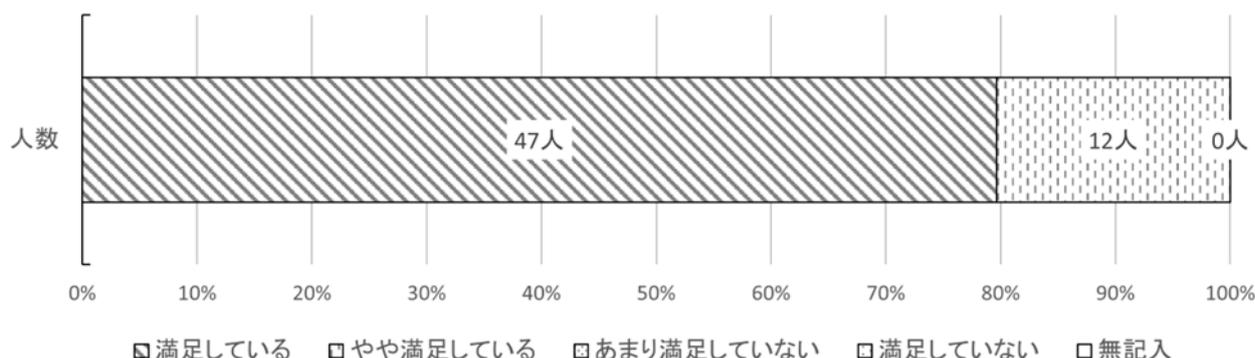
④ 人科図書室の利用の目的は何ですか。当てはまる番号全てに○をつけて下さい。



利用目的は「図書の貸出、返却、閲覧」との回答が安定して過半数を占めている。「複写物・図書の取り寄せ」目的での利用が回答者全体の30.5%で昨年度(37%)より減少したのに対し、「雑誌の閲覧」および「学習・研究」目的での利用がともに15.3%と昨年度(「雑誌の閲覧」:13%、「学習・研究」:11.1%)から上昇した。

また、昨年度は0人だった「情報検索用PCの利用」を目的とした利用者も上昇している。

⑤ 全般的な人科図書室の満足度



いずれの回答者も「満足している」と「やや満足している」と回答している。また、「満足している＝4、やや満足している＝3、あまり満足していない＝2、満足していない＝1」としたときの平均値は3.8（昨年度：3.7）であり、昨年度よりもやや上昇した。

※H27年度までの報告書に掲載した満足度の計算では、値を反転していない（満足＝1、やや満足＝2、あまり満足していない＝3、満足していない＝4）。そのため、値が低いほど満足度が高いことを示していた。H28年度より第3期中期目標計画期間に入ることと、数値の理解しやすさを考慮して、H28年度以降は満足度の計算では値を反転することとする。